

管理課

固 学校教育係(417)

学年	質 問 事 項	本町	県
中学校 一年生	「自分でやると決めたことはやりとげるようにしている」の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	92.7%	89.0%
	「自分によいところがある」の「当てはまる」と答えた生徒の割合	42.1%	33.8%
	「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して「当てはまる」と答えた生徒の割合	48.4%	41.6%
中学校 二年生	「自分で考え、自分から取り組んでいる」の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	81.7%	74.1%
	「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合	92.4%	87.7%
	「難しい問題に挑戦する授業にやりがいを感じる」に対して「やりがいを感じる」と答えた生徒の割合	89.3%	80.8%

4 学力調査結果の考察

調査の結果をみると、学力の定着については課題がみられますが、質問紙の結果からは学習に対する意欲や取り組みなど結果として表れにくい学力は高まってきていると考えられます。

小学校は無解答率が県平均より高いが、中学校になると減少している傾向にありました。また、小中学校とも自分の言葉で答えを書く記述式の問題へ解答できていない児童生徒が多い結果が出ていました。

小学校ではICTを活用した授業にやりがいを感じる児童が多く、活動を通して学習することへの興味が高い結果が出ていました。中学校では難しい問題に挑戦する授業にやりがいを感じている生徒が多く、諦めずに取り組む姿勢が県より高い結果になりました。キャリア教育も重要で、小学生は今の学習が将来の役に立つと感じている児童が県平均を上回っていますが、中学生になると県平均を下回る結果が出ていました。社会の農業や理科の天気図や植物など身近な事象についての正答率が高い傾向がみられました。

県平均を下回る教科が多いですが、残り1・2問で平均を上回ることができます。そのためには、「基礎・基本の定着」と「指導法の改善」が必要です。基礎・基本の定着の視点では、身近な教材を利用した学習や地域の体験活動等から「主体的」に考えさせることや、学んだことを説明したり、自分の中で考えたりする「対話」が大切です。また、学習内容を定着させるために学校や家庭で練習問題に取り組むことも必要です。難しくなってくる学習内容に挑戦し、「今ある知識で解決できた」「学習が役に立つ」という達成感や充実感を味わわせ児童生徒の学力を定着させることが重要です。

ICTを活用した授業が充実していると感じている児童生徒が多く、県平均を上回っています。指導法改善の視点から「ICTを使うことが目的ではなく、手段として効果的に使うこと」へのレベルアップする時期にきています。教職員がICTを効果的に使わせる研修を深めるとともに、家庭や地域で使う際のICTモラルを高めていくことも必要と感じています。